



箕面小だより



箕面市立
箕面小学校
令和8年(2026年)
3月号

学校教育目標
めざす子ども像
めざす学校像

支え合い、ともに伸びゆく箕面小っ子

ともに考える子(知)、ともに高め合う子(情)、ともにやりぬく子(意)

○あいさつと笑顔であふれる学校

○思いやりと優しさが感じられる学校

○高学年が在校生の「あこがれ」の存在となる学校

○保護者・地域とともにあゆみ、信頼される学校

多様な視点

校長

早いもので、学校だよりも今年度最終号となりました。先日ご協力いただいた学校教育自己診断の結果が届きました。詳細は2ページめ以降をご確認ください。いただいた全ての回答と記述に目を通し、年に一度、学校経営を見つめ直す大切な機会として活用しております。ご協力に心より感謝申し上げます。

アンケートには、「先生は子どものまちがった行動を指導してくれる」「先生は子どもを十分に理解している」「先生は子どもの評価を適切・公平に行っている」という、「先生」を主語とした項目があり、肯定的回答はいずれも8割前後でした。日々の教育活動への信頼の表れとしてありがたく受け止める一方、「もっと良くなる余地がある」というご意見も真摯に受け止め、今後の改善につなげてまいります。

その際、私たちが大切にしたいのは、子どもの姿には“絶対に正しい一つの見方はない”ということです。同じ行動であっても、その解釈や価値づけは人によって大きく異なります。たとえば、子どもが周囲を見回す様子を「観察」と捉える人もいれば、「戸惑い」と見る人もいます。友だちとのやりとりも、「自己表現」と受け取られる場合もあれば、「距離感の課題」と見えることもあります。また、同じ子どもの姿でも、学校と家庭では見え方が異なる場合もあります。

だからこそ、多様な視点を持ち寄ることで初めて、子どもをより豊かに理解できるのだと考えています。教職員同士が日々の気づきを共有したり、授業や生活の様子を振り返ったりするのは、それぞれの視点で子どもの姿を照らし合わせるためです。さらに、保護者のみなさまとの対話から得られるご家庭での様子や感じておられる思いは、学校だけでは気づきにくい側面を補い、私たちの見取りに新たな深みを与えてくれます。

記述欄には、子どもの良さを丁寧に見てくれているという励ましの声とともに、改善へのご要望も寄せられていました。こうした多様なご意見こそ、子どもたちのより良い学びを支える大切な財産であり、来年度の取組にしっかりと生かしてまいります。

3月18日には、6年生93名がこの箕面小学校を巣立っていきます。卒業を控えた6年生の姿には、仲間とともに成長してきた日々の積み重ねが表れています。自信をのぞかせる表情の裏には、保護者のみなさまの励ましや地域の温かな支えがあります。この一年を振り返り、改めて深く感謝申し上げます。

新しい年度も、学校と家庭、そして地域が多様な視点で子どもたちを見つめ合いながら、共に育てていく学校づくりを進めてまいります。少し早いですが、一年間、本校教育へのご理解とご協力をありがとうございました。